

起業の夢 中学生も体験

企画や販売、自分たちの手で

模擬店設立「経営」学ぶ

ボランティアフェス 阿南会場で実施

子供を対象にした起業体験プログラムが、今年九月の「第九回全国ボランティアフェスティバルとくしま」の阿南ブロック会場で実施される。各学校などで行われている販売体験などとは異なり、実際にお金を使い、会社を設立、商品の企画も練り、物品調達から販売を通して売り上げを目指す。会社をつくる楽しさや経済の仕組み、働くことの大きさを肌で感じ、起業家へのきっかけともなるのが狙いだ。全国的にも珍しい。



起業体験プログラムの打ち合わせをする阿南ブロック実行委員会とNTVPのメンバー＝阿南市内のホテル

起業体験プログラムは、発展性のあるベンチャー企業に投資する「日本テクノロジーズベンチャーパートナーズ投資事業組合」(NTVP、村口和孝代表)と海部郡海南町出身、東京都文京区)の全面協力で行う。フェスティバルの内容を検討していた同ブロック実行委員会(澤田稔会長)が、NTVPが起業体験プログラムを実施していることを知り、話を持ち掛けた。

計画では、フェスティバル会場をひとつの経済社会と想定。子供五～七人が焼きそばやタコ焼きなど販売する商品を決め、材料購入費や販売額などの收支計画を立案する。出資金五百円を出し合い、大学生の模擬投資者や模擬銀行からの融資も受けて会社(模擬店)を設立。材料などを購入して持ち、当日会場を訪れた人に販売する。

販売終了後は、決算報告書を作り、公認会計士に監査してもらうことにする。売上金は子供たちの利益となるが、一部は社会福祉施

設への寄付などを予定している。対象は中学生を中心に考えていて、六～九チームを募る方針。現在、細部を煮詰めている。近く募集を始める。

NTVPは、昨年十一月、東京都大田区で初めて同プログラムを実施。子供たちはゼロから考え、体験する上で、経済の仕組みの理解のほか、企画力や仲間とのコミュニケーションづくり、一つのことをやり遂げる力などの醸成に効果があったという。

村口代表は「子供たちの中には、将来、会社をつくりたいという夢を抱いている子は多い。起業という夢

をはぐくむきっかけとしてほしい」と話している。全国ボランティアフェスティバルは九月二十三、二十四の二日間開催。二十三日は徳島市内で全休会が開かれ、二十四日は県内十ブロックで分科会やイベントが行われる。阿南ブロックは二分科会のほか、阿南市民会館前駐車場に模擬店の出店やステージの演奏などの「ふれあい広場」を開設。起業体験プログラムはこの一角で行われる。